

屋久島世界自然遺産・国立公園における山岳部利用のあり方検討会 における検討経緯

1. 経緯

平成 28 年度、世界自然遺産地域・国立公園の山岳部の自然環境を保全するとともに、山岳部利用者に屋久島らしい質の高い利用体験を提供することを目指し、山岳部利用のビジョンを定め、施設の整備及び維持管理、利用者管理並びに情報提供等の適切な管理方策を検討するため、有識者等による「屋久島世界自然遺産・国立公園における山岳部利用のあり方検討会」を設置。概ね「骨子イメージ」に沿って検討を進めている。

平成 29 年度は「屋久島世界自然遺産・国立公園の山岳部適正利用ビジョン」（以下、「ビジョン」と記載）を取りまとめ、平成 30 年度は適正利用のため登山道のルートごとの「あるべき利用体験ランク」とランクごとの目標・方針、令和元年度は登山道の区間毎の施設整備・維持管理水準を設定した。前年度の令和 2 年度は検討会を 3 回開催し、ビジョン等とりまとめる予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催延期措置をとったことで議論を終えることができなかった。

これを受け、令和 3 年度は 2 回の検討会を開催しビジョンをとりまとめる。

(1) 検討会構成員

- 【検討委員】** 柴崎茂光（東京大学農学部准教授）
（五十音順。敬称略） 土屋俊幸（東京農工大学大学院教授） ※座長
吉田正人（筑波大学大学院教授）
- 【関係機関】** 林野庁九州森林管理局、鹿児島県、鹿児島県教育委員会、屋久島警察署
屋久島町、公益財団法人屋久島環境文化財団、屋久島町議会
屋久島町区長連絡協議会、屋久島観光協会
屋久島山岳ガイド連盟、屋久島レクリエーションの森保護管理協議会
宮之浦岳岳参り伝承会、環境省九州地方環境事務所
- 【オブザーバー】** 屋久島世界遺産科学委員会委員

(2) 検討会開催日と策定項目

【山岳部ビジョンの骨子】

1. 作成目的
2. 背景
3. 対象区域
4. ビジョンと基本方針
5. 適正利用のためのあるべき利用体験ランク設定
6. あるべき利用体験ランクごとの（管理）目標・方針
7. 施設の整備と維持管理
8. 利用者誘導と情報の提供
 (1) 利用者誘導、(2) 情報の提供
9. モニタリング
10. その他（管理体制・担い手確保等）

